

# Abstract

AROMA RESEARCH No.75(Vol.19 No.3)

## 嗅覚検査を用いたパーキンソン病における認知症発症予測 馬場徹

---

### <要旨>

パーキンソン病はアルツハイマー病に次いで多い神経変性疾患であり、中脳黒質のドパミン神経変性に起因する運動症状を生じる疾患として捉えられてきたが、研究の進歩に伴ってパーキンソン病では中脳黒質以外の病理変化によって多彩な非運動症状を伴うことが近年明らかとなっている。なかでも認知機能障害はパーキンソン病患者にとって最も問題となる症状の一つであり、早期診断及び早期治療が望まれているが、的確な予測は難しいのが現状である。

我々は先行研究において重度嗅覚障害がパーキンソン病における認知症のリスク因子であることを報告し、現在では嗅覚検査はパーキンソン病患者の認知機能予後を推測するバイオマーカーの一つになりうると考えられている。

現在、我々は重度嗅覚障害するパーキンソン病患者に対して認知症治療薬であるドネペジルを早期投与し認知症の発症を予防できるか調べており、このような取り組みによってパーキンソン病患者の治療戦略の確立および予後改善が期待される。

### <キーワード>

パーキンソン病、認知症、嗅覚検査、発症予測、認知症予防